

## (2) 材料表

No	品名	寸法等	数量	No	品名	寸法等	数量
1	塩ビ板	t 2.5×110 <sup>□</sup>	1	5	ラワン材	10×120×200	1
2	アクリル板	t 10×16×60	1	6	ビスねじ	M3, L12	1
3	銅板	t 0.3×6×120	1	7	ビニール単線	細(16本)2色 300	12
4	磷青銅板	t 0.3×10×300	1	8	木ねじ	サラ, 首下 6	16

## (3) 製作上の留意事項

- ① TP用ペン（水性）で塩ビ板上に必要な回転板寸法をとり、両頭研削盤で円形に作り、仕上げは、細目のサンドペーパーで研磨する。
- ② つまみを回転板上にエポキシ系の接着剤で接合する。
- ③ 接点板の両端は、目立用ヤスリで角をとり、接点との接触をスムーズにする。
- ④ 接点は先を半円形につくり、金工用布ヤスリ（400番以上）で再仕上げするとよい。
- ⑤ 接点は、いわゆるS字形に曲げ接点板と接触させるが、回転板の回転時に、接点以外に接触しないよう木台に取り付ける。
- ⑥ 接点は2枚1組になって取り付けるが、その間かくは約5mm位がよい。
- ⑦ 回転板を木台に取り付ける際、木台裏面にビスねじ用ナットが出るので安定を欠くから、8.0φのキリで下穴をあけるとよい。
- ⑧ 部品が全部取り付けたら、つまみをつかみ、左右に回転させて、スムーズな回転になるかどうかたしかめる。
- ⑨ もし、回転がスムーズにいかないとすれば、それは次のような原因だから修正してほしい。つまり、接点板を押している接点の圧力が強すぎるからであり、接点の曲げ具合を加減して調整するとよい。
- ⑩ 各接点よりの配線は、時計回りと反時計回りの回路をビニール単線の色を別々にして配線するとよい。これは、生徒に説明する際便利であるし、理解が早い。
- ⑪ 配線が終わったら、各接点間の導通試験を回路計で行ない、導通の有無を確認する。導通がないときは、接点板と接点の接触不良が大部分なので、そこを調整するようにする。